

## 令和5年度 研究の全体計画

### 1 研究主題 主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成

#### 2 主題設定の理由

##### (1) 今日の課題から

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展するようになってきている。これらの変化は、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。そのため、子どもたち一人一人が、予測できない変化に主体的に関わり合い、自らの可能性を發揮し、より良い社会や人生を実現する力を身に付けられるようにすることが重要である。

また、学習指導要領では、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」という三つの柱で構成された資質・能力の育成を目指すこと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることなどが記されている。

令和4年度全国学力・学習状況調査、質問紙調査結果「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」との質問に対して肯定的に回答した児童生徒の割合は、調査を始めた頃から徐々に上昇はしているが、昨年度と比べて横ばいである。肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の平均正答率が、高い傾向であると考察されている。算数科においては、調査結果の指導改善のポイントの中に「日常の場面に対応させながら」、「日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるとき」、「日常生活の場面に即して」等といわれており、日常生活に結びつけて指導改善することが大切だと考えられている。

##### (2) 学校教育目標の具現化から

###### 【本校の学校教育目標】

#### **心身ともに健康で、共にみがき合い、共に伸びていく子どもの育成**

本校では、上記の教育目標のもと、未来に向かって大きな夢と希望をもって、自分のもち味を遺憾なく發揮し、生き生きと活動できる「かしこい子、やさしい子、たくましい子、はたらく子、佐原が大好きな子」を育て、“希望の登校、満足の下校”佐原笑楽校を目指している。つまり、社会の一員という自覚をもって心豊かにたくましく生き、様々な困難にぶつかったときでも、自ら考え解決していける児童、母校を思いふるさとを愛する児童の育成である。そのためには、自らの課題を主体的に考え、自分なりの考え方をもち、それを広げたり深めたりして自己実現していくことが求められる。そして、実生活と関わりのある学びを通じ、学んだことを生活や学習につなげ、考えを深める学びを創造していくことは、本校教育目標の具現化の大きな柱であると考ええる。

##### (3) 本校の児童の実態から

児童数は688名で学級数28(特5)であり、児童は明るく元気で、素直である。令和3年度から2年間、理科、生活科、特別支援教育を基盤として「主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成」を主題に、主体的な学びにつながる手立てに加え、自分の思考過程を振り返り、交流を通じて考えに自信をもち、さらに表現を深めることを重視した研究を行い、授業改善を進めてきた。

算数科における近年の児童の実態は、千葉県標準学力検査において、主体的に取り組む態度に関して肯定的に回答していた児童はどの学年も県平均を上回る高い数値を示している。

しかしながら「知識・技能」「思考・判断・表現」に関しては、県平均もしくは、やや下回る結果となっている。児童は与えられた課題に対して前向きに取り組んでいるが、その場だけのものになっており、それが「知識・技能」「思考・判断・表現」の学力に結びついていない。特別支援教育においても、学んだことを生活に使えるようにすることは、これからの生活において必要なことである。

そこで、算数科、特別支援教育を基盤として研究を進めるにあたり、児童が自分ごととして問題解決できるような日常生活の場面を設定したり、学んだことが日常生活にどう生かされるのかと意識づけたりすることで児童が主体的に多様な考えを出し合い、考えを深めていけると考え、本主題を設定した。

### 3 研究目標

- 児童が自分ごととして問題解決できるような日常生活の場面を設定したり、学んだことが日常生活にどう生かされるのかと意識づけたりすることで主体的に多様な考えを出し合い問題解決し、学びを深める子どもの姿の在り方を、実践を通して明らかにする。

[算数科]

- 一人一人の教育的ニーズを踏まえ、目的意識をもち主体的に活動し、学んだことを生活や学習につなげられるようにする指導・支援の在り方について実践を通して明らかにする。

[特別支援教育]

### 4 めざす子ども像

- 自ら課題を見つけ、主体的に追究していく子 【かしこい子】
- 自分の思いや考えを、適切に表現できる子 【かしこい子】
- 他者との協働活動の楽しさや喜びを実感できる子 【かしこい子・やさしい子】
- より良い生き方を探り、進んで努力していく子 【たくましい子・はたらく子】
- 母校を思い、ふるさとを愛する子 【佐原が大好きな子】

### 5 研究仮説

- 仮説 [算数科]

授業の中で、児童が自分ごととして問題解決できるような日常生活の場面を設定したり、学んだことが日常生活にどう生かされるのかと意識づけたりすることで、児童は主体的に多様な考えを出し合い、問題解決し、学びを深めることができるであろう。

- 仮説 [特別支援教育]

個に合わせた学習内容を精選する場において、一人一人の教育的ニーズや目指す姿を整理し、理解を促す学習活動及び学びの場の工夫をすれば、どの子どもも進んで学習や活動に取り組むことができるであろう。

### 6 研究の内容

- (1) 研究目標に対する基本的な考え方の理論研究
  - ・日常生活をイメージしながら自分ごととして問題解決している子どもの姿
  - ・主体的に多様な考えを出し合い問題解決をする子どもの姿
- (2) 算数科、特別支援教育についての理論研究

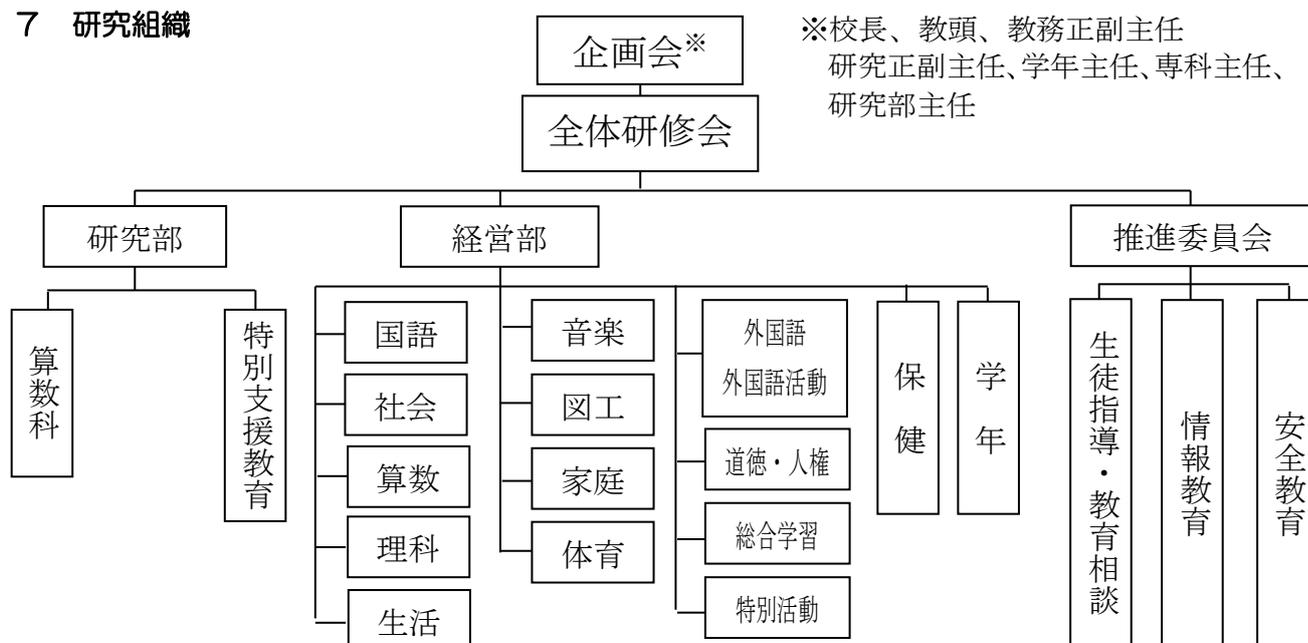
[算数科]

- ・日常生活の場面の設定の仕方、意識づけの仕方について
- ・数学的な見方・考え方
- ・数学的活動

- ・児童の変容の見取りについて（OPPシート）
- [特別支援教育]
- ・わかって動ける学び合いについて
  - ・ユニバーサルデザインの3つの視点「情報提示」「環境整備」「学級集団作り」について
  - ・小集団での「学級集団作り」について
  - ・児童の変容の見取りについて

(3) 仮説に基づいた授業実践・分析・考察

## 7 研究組織



## 8 研究計画

月	日	曜日	研修内容
4	6	木	保健研修（アレルギー対応研修）
	10	月	経営部会研修（経営方針、年間指導計画等の立案）
	13	木	学年研修
	20	木	個人研修（家庭確認等）
	27	木	研究企画会、研究部会研修
5	11	木	全体研修 （今年度の研究の進め方、指導案の書き方の共通理解、授業者の検討）
	18	木	全体研修（全国学力学習状況調査について）
	25	木	学年研修
6	1	木	全体研修（救急法）
	2	金	全体研修（外部講師）
	8	木	個人研修
	22	木	学年研修
	29	木	研究部会研修（低中高別で情報交換）
7	6	木	個人研修
	11	火	第1回要請訪問

	1 3	木	次長訪問、学年研修
	2 0	木	経営部会研修（備品整理）
8			※夏季休業中、第1回校内研究会に向けて構想を練っておく
9	7	木	個人研修
	1 4	木	研究部会研修（指導案検討①）
	2 1	木	学年研修
	2 8	木	個人研修
1 0	5	木	個人研修
	1 2	木	研究部会研修（指導案検討②）
	1 9	木	学年研修
	2 6	木	研究部会研修（指導案検討③）
1 1	2	木	研究部会研修（授業準備）
	9	木	学年研修
	1 6	木	研究部会研修（授業準備）特別支援研究部会研修（指導案検討①）
	2 2	水	第1回校内研究会（第2回要請訪問）
	3 0	木	特別支援研究部会研修（指導案検討②）、研究部会まとめ
1 2	7	木	特別支援研究部会研修（指導案検討③）、研究部会まとめ
	1 4	木	教育課程①
	2 1	木	特別支援研究部会研修（授業準備）、学年研修、
1	1 1	木	特別支援研究部会研修（授業準備）、個人研修
	1 2	金	第2回校内研究会（第3回要請訪問）
	1 8	木	学年研修
	2 5	木	教育課程②
2	1	木	個人研修
	8	木	経営部会研修 ※教育課程会議との兼ね合い
	1 5	木	教育課程③
	2 2	木	研究企画会
	2 9	木	学年研修
3	7	木	全体研修（今年度のまとめ）
	1 4	木	個人研修
	2 1	木	備品整理